

「東海第二原発反対連絡会」を結成して とくくお！ 県北の仲間たち！

【写真は首都圏10
万集会の様子】



昨年12月、美和・緒川、大宮平和の会を中心に、地域の
日本婦人の会、農民連、年金者組合、国民救援会、母親連絡会
等の団体が結集して、「東海第二原発反対連絡会」が結成されま
した。

2月9日、第2回目の会議を開き、① 県知事あて署名3000
筆を3月の提出までにやりきる ② のぼり旗を独自に55本作成
し、地域各所に立てることを決めました。

署名は、大宮が1000筆やりきることを決意しました。のぼ
り旗は、美和・緒川の堀江さんが作成し、美和・緒川20本、
大宮20本、新日本婦人の会10本、年金者組合5本に振り分け
ました。それぞれの団体が、直接に、また伝手（つて）を探
して協力をお願いするなどして、道路の脇、国道沿い、大型店
近くなどに立てています。今後は農協などや他団体にも積極的に呼
びかけ、さらに運動を大きく広めようとみんなで頑張っています。

土浦平和の会ニュース

「さよなら原発土浦地域連絡会」 2月4日 新春交流会に26名参加



今年の取り組み、原水禁茨城県協議会会長の加藤岑男さんの講
演、昼食をはさみながら、参加者、団体からの意見や訴えなど
を通し交流を深めました。

講演では日本原水協マーシャル諸島ロンゲラップ島民支援代表団
として参加し、1月23日帰国したばかりの加藤岑男さんが、
「被災した島民86名のうち58名がガンなどの放射能障害で亡く
なっています。今でも島民は外部被曝に加え内部被曝に苦しみ、
2世3世にもその影響が現れている。米国やマーシャル政府は島
を離れた人たちにロンゲラップ島に帰還することを進めているが、
島で除染されたのはごく一部であり、島で採れた食物は制限され
るなど帰島にゆれています。原水爆実験で島民はモルモット扱い
にされており、アメリカは追跡調査や健康調査結果も住民やマー
シャル諸島政府に知らせていません。マーシャル諸島の核実験被
災の実態をもっと知らせなければ」・・・などスライドを交え
て、米核実験場マーシャル諸島やロンゲラップ島民の様子を詳細
に語ってもらいました。

60年近くたっても放射能汚染に苦しみ故郷にも戻れない、当
局の隠蔽体質、被害を小さく見せる工作など、福島原発事故と重
なります。

原発ゼロへ、共同を広げ 運動を発展させよう

「原発をなくす運動の発展をめざす第2回全国交流集会」が、
2月2日（土）、東京湯島の「全国家電館」で開催され、全
国28都道府県から約180人、茨城から4人が参加しました。

長瀬事務局長（全日本民医連）が報告と行動を提起、「即時原
発ゼロと再稼働反対の運動の発展」「福島の被災地の現状復帰」
「とくくみの経験交流」を呼び掛けました。

連帯の挨拶で、首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさん
は、毎週金曜日の首相官邸前再稼働反対や原発ゼロのアクションを
報告、3月10日の「原発ゼロ☆大行動」では、党派や思想を
越えて運動を進めたい、と訴えました。脱原発首長会議事務局長
の上原公子さんは、「昨年4月に結成し、現在36都道府県81
人になった。原発を推進する政府の動きに歯止めをかけたい」と
述べ、脱原発世界会議の川崎哲さんは、「『原発ゼロノミクス』
キャンペーンを世界的に立ち上げたい」と表明しました。

特別報告では、福島復興共同センターの齊藤富春さんが「手抜
き除染」や除染労働者の実態を告発、吉川利明さんが「東電に全
面賠償を求める運動は原発ゼロを求める運動である」と発言、最
後に全日本民医連事務局次長の伴香葉さんが、「福島県民の健康不
安に応える活動を進めている」こと報告しました。

その後、参加者22人が各地の脱原発の多様な取り組みを、持

全国連絡会交流集会報告



ち時間1人4分で報告しました。茨城は「東海第二原発の再稼働
反対・廃炉に」の取り組みを紹介しました。

最後に「安倍内閣の暴走を許さず、3月10日に行なれる原発
ゼロをめざす全国いっせい行動をはじめ、脱原発運動を飛躍的に発
展させる」ことを確認しました。なお県知事宛署名のお願いをし
たところ、集会終了までに135筆の協力をえられました。

3月20日 県平和委員会活動交流集会

茨城県立青少年会館（研修室1・2）にて10時開会
各地域の体験を踏まえて楽しい交流の場としましょう。

平和新聞

2013年2月25日（月曜日）

2009号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 647
2013.2/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

3.1ビキニデーってなあに？

1954年3月1日未明、アメリカは中部大西洋マーシャル諸島ビキニ環礁で水爆「ブラボー」（広島型原爆の千倍以上の威力）の実験を実施しました。きのこ雲に吸い上げられたサンゴは、大量の「死の灰」となって東190キロにあるロンゲラップの島々や東160キロで操業中の日本漁船※延べ992隻の上に降り注ぎました。 ※（「ビキニ被災事件に伴う慰謝金配分」1955年4月28日閣議決定）

マグロ漁船第5福竜丸乗組員23人は、急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さんは「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を遺して、同年9月23日に亡くなりました。港に戻った各地のマグロ漁船から放射能に汚染されたマグロが発見され、「原爆マグロ」として廃棄される事態となり、海産物の放射能汚染の不安から国民の生活に大きな影響を与えました。

このビキニ被災事件は、日本全国で「原水爆禁止」を求める声となり、全国的な署名運動が始まり、有権者の過半数（3400万）に達しました。翌55年8月には第1回原水爆禁止世界大会が開催され、毎年3月1日には、第5福竜丸の母港 焼津市でビキニ水爆実験犠牲者の追悼と核兵器廃絶の願いを新たにするビキニデー集会などが毎年行なわれるようになりました。

2013/3.1 ビキニデー日程

- 2月27日(水) 2013年3.1 ビキニデー日本原水協全国集会
・ 国際交流集会 / 海外代表歓迎レセプション
- 2月28日(木) 2013年3.1 ビキニデー日本原水協全国集会
・ 全体集会 / 分科会 (8会場)
- 3月1日(金) 墓参行進・墓前祭
被災59年2013年3.1 ビキニデー集会

【問い合わせ】

原水爆禁止茨城県協議会
水戸市見川5丁目127-281 平和会館内
電話：029-251-9919



Big対談

村上達也村長&小森陽一さん

東海村から日本の未来を考える
～いのちを守るために～

日時 2013年 3月30日(土)
14:00 ~ 16:30 (13:00開場)
会場 東海文化センター 入場料=500円
交通 東海駅近く・東海中央公民館の敷地内
主催 3.30Big対談実行委員会
TEL: 029(231)4555



現地では東海村平和委員会を中心に、集会を成功させるため、新日本婦人の会、リリウム会、保健生協など多くの団体が参加して「東海村実行委員会」が結成されました。賛同者を集めるため、団体や個人にチラシを配布したり、村内に至るところにポスターを張り出すとりくみを進めています。

また、「東日本大震災3.11メモリアルデー」には、午後5時半から東海駅前で、「キャンドルナイト」にとりくむことを計画しています。

会場の収容人員は800人です。会場はちきれんばかりの参加者をめざしています。



原発「やめる」7割超す！ 朝日新聞世論調査



朝日新聞社の全国定例世論調査（電話）で、原発の今後について5択で聞いたところ、「やめる」と答えた人は合わせて7割を超えたと発表しました。

安倍首相は先月の衆院本会議で、民主党政権が掲げた「2030年代に原発稼働ゼロ」という政策を「ゼロベースで見直す」と明言しました。それを受け、調査では原発を今後、どうするかを質問しています。「すぐにやめる」は13%、「2

030年より前にやめる」は24%、「2030年代にやめる」は22%、「2030年代より後にやめる」は12%で、「やめる」は計71%。「やめない」は18%にとどまりました。

東日本大震災の発生と福島第一原発の事故から間もなく2年を迎えます。「国民の間で原発事故の被災者への関心が薄れ、風化しつつあると思う」は66%にのぼり、「そうは思わない」の29%を引き離しました。

[シリーズ] わが街・わが会員

ひたちなか市/大和田 喜一さん
(ひたちなか平和の会)



若者の勉学の時間を奪った時代



私は昭和2年生まれですから戦中戦前が18年ありました。生活の一端を……

「ススメススメ兵隊ススメ」の教科書でした。日中戦争の初期にはまだ余裕があって、戦地の兵隊さんに慰問袋を送ったりもしました。

千人針・千社参拝も年中行事になっていました。中学に入学（昭和15年）した頃からは、すべてが戦争遂行に向けられ「欲しがりません、勝つまでは……」の標語も……

中学は集団登校。姿は戦闘帽にゲートル、校門では歩調をとり入門し奉安殿に最敬礼、陸軍将校も配属され軍事教練もありました。

春と秋には、出征兵士の留守家族の家に農作業の手伝いに、夏には、日立鉾山の貨車からスコップで鉾石下ろしの勤労働員に駆り出されました。中学5年からは、勉強なしで日立製作所に毎日ジャガ薯入りのオニギリの昼食で働かされました。

若人の勉学や生活の時間をすべて奪いとった時代でした。